

研究テーマ	地域の素材を生かした鑑賞活動の工夫 －第 1 学年「校内彫刻かくれんぼ」の実践を通して－
-------	---

高萩市立秋山中学校 教諭 砂押みゆき

I 研究テーマについて

1 研究の主張点

中学校における美術の授業時間は 1 学年 4 5 時間、2 学年 3 5 時間、3 学年 3 5 時間、3 年間の合計が 1 1 5 時間である。ほとんどの生徒が進学をするが、進学先によっては芸術が選択制になっている学校も多い。そのため、生徒の中には進学しても美術を学ばない、つまり中学校の美術の授業の 1 1 5 時間が造形活動の最後の時間となってしまう生徒がいることになる。このことを受けて、中学校の美術の授業ではこのわずかな時間の中で、生徒に美術を学ぶ楽しさや生涯学習として、この先も何らかの形で美術に親しんでいこうとする意欲を育まなければならないと考える。

美術の創造活動は、生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを造形的に具体化する表現活動と、表現されたものなどを自分の目で直接とらえ、よさや美しさ、作者の心情や考えなどを感じ取り味わう鑑賞活動とがある。どちらの活動も同じように重視され、生徒たちに美術を学ぶ楽しさや、美術に親しんでいこうとする意欲を育む授業でなければならない。しかし、限られた時間の中では両方の活動を同じように重視するのは難しく、特に表現の活動に多くの時間を偏らせてしまうことが実態である。学習指導要領にも、鑑賞に充てる授業時間を十分確保するようにする、と明記されていることから、この実態が本校だけでないことの裏付けとなろう。そういった実態からも、生徒の関心を引き、意欲をもって取り組める鑑賞活動の充実が求められている。

では生徒の関心を引き、意欲をもって取り組める鑑賞活動とはどんなものであろうか。ひとつに、生徒の身近なものを題材にした鑑賞活動が挙げられる。学習指導要領には「身近な地域」における鑑賞の対象として、地域にある伝統的な工芸品や祭りの山車、建造物、家庭にある掛け軸や扇子、風呂敷なども考えられる、とある。しかし、現代の日本では、多くの住宅で畳が取り払われ、縁側や床の間を有する日本家屋で生活をしている人が少なくなっている。反対に、フローリングやテーブルでの欧米式生活スタイルが浸透し、一般化してきている。そのような生活スタイルの変化から、以前はどこの家庭にもあった掛け軸や扇子、風呂敷などの身近な美術作品が失われつつあるように感じる。

そこで、今回は生活の中の美術作品ではなく、地域に根差した美術作品を取り上げ、生徒の関心や意欲の向上につながるよう、鑑賞活動を実践した。本題材は美術教育の鑑賞活動における地域の素材を活用した実践の報告である。

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

中学校の美術の授業では、わずかな時間の中で、生徒に美術を学ぶ楽しさや生涯学習として、この先も何らかの形で美術に親しんでいこうとする意欲を育んでいくことが重要であると考えられる。しかし、限られた時間の中では、表現活動と鑑賞活動を同じように重視するのは難しく、特に表現の活動に多くの時間を費やしてしまいがちである。そこから、生徒の関心を引き、意欲をもって取り組むことができるような鑑賞活動の充実が求められている。鑑賞活動の充実のために地域の素材を活用していくことは、学習指導要領でも説明されている通り、これからの美術教育にとって必要とされ、充実させていかなければならない重要な課題である。

中学校に入学し、図画工作から新たに美術を学習することになった第1学年には、特に美術文化に対する関心を高められるような地域素材を活用した鑑賞活動が必要である。

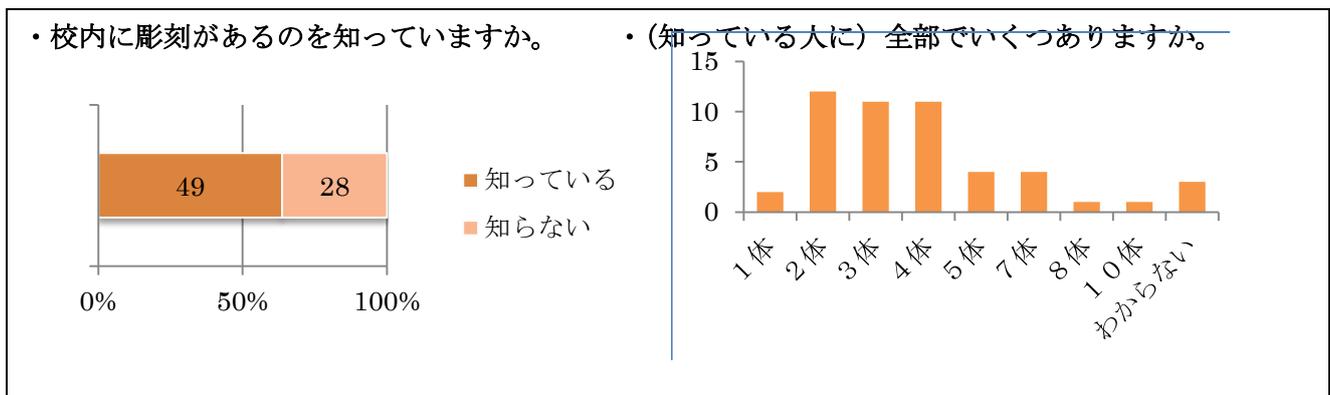
(2) 地域及び本校の実態から

高萩市では、高萩に生きる「萩っ子」を育てるために、郷土高萩のよさを発見し、市民としての意識を高める学習活動の充実を図ることが求められており、「高萩学」として地域の文化を活用し、高萩に対する誇りや愛着心を育むような学習活動を推進している。

高萩市内には多くの彫刻が設置されていて、本校にもブロンズの人体彫刻が7体ある。その作家、本市出身の彫刻家である、山崎猛氏を取り上げ、鑑賞活動の題材とした。

授業を実践する以前、生徒の多くが、市内で多くの彫刻に触れてはいるものの、彫刻家山崎猛氏という名前も、学校に設置してある彫刻の数も知らないというのが現状であった。

【美術に関するアンケートより】



そこで、まずは校内にある彫刻を鑑賞し、自分なりに感想をもった上で、山崎猛氏という郷土の彫刻家について知ることによって、生徒の関心や意欲の向上につなげられるよう、本研究主題を設定した。

3 研究のねらい

地域の作家の彫刻作品を鑑賞することで、郷土への愛着をわかせる、彫刻作品や作家については美術自体への関心を高め、すべての生徒の学習意欲の向上を図ることができるような指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

地域の素材を生かした鑑賞活動をすることで、生徒の美術に対する関心や意欲は向上するであろう。

5 研究の内容

(1) 山崎猛氏について

山崎猛氏は1930年3月5日、茨城県高萩町大字秋山に父三郎、母じょうの長男として生まれた。1937年に高萩町立秋山小学校入学、1942年に小学校を卒業。

1954年、茨城大学を卒業後、高萩市立高萩中学校へ勤務。教職の合間に彫刻の制作を続けるとともに、1956年には、美術の授業における貝細工などの造形美術の実践が話題となるなど、教育的な成果も上げている。

II 研究の実際

1 題材名 校内彫刻かくれんぼ

2 題材の目標

○郷土の作家に親しみを感じ、美術作品に興味をもとうとする。(美術への関心・意欲・態度)

○身近にある彫刻作品を鑑賞し、自分なりの感想をもつことができるとともに、他者の意見を聞いて考えを深めることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

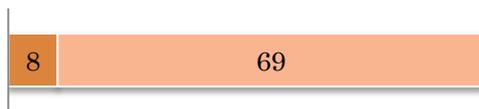
(1) 生徒の実態

山崎猛氏(以下、山崎氏とする)について、授業を行う前に、生徒たちがどれだけの認識をもっているかアンケートによる調査を行った。その結果、山崎氏が彫刻家であるという知識をもっている生徒は77名中8名のみであった。その生徒たちも山崎氏が高萩市の出身であることについては触れていない。したがって、生徒たちは山崎氏についてほとんど何も知らない状態である。

・山崎猛さんという人を知っていますか。

(知っているという人にききます)

■ 知っている ■ 知らない



・何をしている人ですか。

・彫刻をつくった人(2人)

・彫刻をほった人

・銅像などをつくる人

・絵か彫刻をつくる人

・彫刻家

・彫刻とか

・なんかしてる人

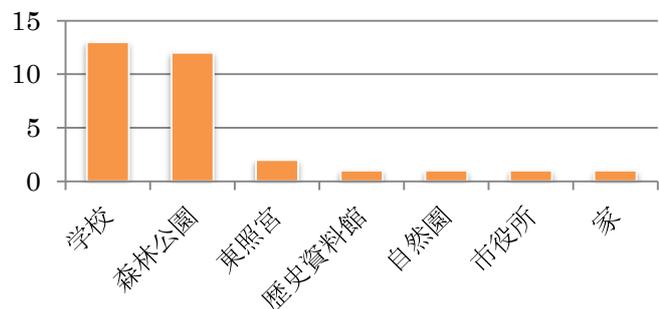
彫刻についても同様にアンケートを実施し、彫刻自体や制作についてどれだけ関心があるかを調べた。その結果、生徒たちは、彫刻を目にする機会が多いことがわかった。これは、山崎氏が制作した作品を市が買い上げて設置したり、山崎氏自身が学校に作品を寄贈したりしたことから、市内のあらゆるところで山崎氏の彫刻が見られるためではないかと考えられる。

美術館以外で彫刻を見たことがある生徒の多くが回答した森林公園は、本校の近くにある公園で、山崎氏の彫刻が数多く設置されている場所である。このように生徒たちは、自然と彫刻に触れることのできる環境にいることがわかった。

・美術館で彫刻を見たことがありますか。

(美術館以外で彫刻を見た人に)どこで見ましたか？

いいえ
29%



(2) 題材感

校内にある彫刻作品は、地元出身の彫刻家山崎猛氏の制作したものである。市役所や市立図書館等、市内にある彫刻作品を多く制作しており、生徒にとっては先輩であり、身近な芸術家といえよう。本題材では郷土の作家の作品を鑑賞することによって、身近な地域の美術作品や美術全般に興味をもつことをねらいとしている。

彫刻は市役所や図書館など多くの公共の場に設置されているため、生徒が目にする機会は多い。普段生活している学校の敷地内にも数々の彫刻が設置されている。小学校にも同作者の作品が設置されていることから、校内にある彫刻は生徒にとって素直に受け入れやすい、親しみのもてる美術作品である。そこで、この題材から美術を身近なものに感じ、次の制作に活かしてほしいと考える。

(3) 指導感

新学習指導要領では、第2 各学年の目標及び内容の2 内容B 鑑賞（ア）に、「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。」と明記されている。そこで、今回は、彫刻の形や作者の制作意図に寄り添うような設問を記載したワークシートを用いて、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。また、他者の意見や感想を聞くことによって、自分だけでは気付かない点にまで見方や感じ方を広げるなどして、鑑賞の能力の向上を図っていききたい。

そのため、分かる・楽しい授業に迫るために、屋外に出て、設置されている彫刻を実際に自分の目で鑑賞する機会を設定する。鑑賞を通して、紙面では感じられない彫刻の量感や、彫刻を含めた空間を感じることによって、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにする。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
鑑賞活動を通して、郷土の美術文化や彫刻作品を含めた美術作品全体に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。	彫刻作品に対し、表現のよさや美しさを感じ取り、他者の考えを聞くことで、自分の見方を広げようとしている。

5 指導と評価の計画（1時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	① 野外の彫刻作品を鑑賞し、設問に対する感想をワークシートに記入する。 ② 感想を発表し、作者の山崎猛について知る。	・彫刻作品に対して、自分なりの感想をもつことができる。 鑑 【ワークシート】 ・作者の山崎猛や彫刻作品自体について自分なりの考えをもつことができる。 関 【ワークシート】

6 指導の実際

(1) 学習の内容

① 野外の彫刻作品7体を鑑賞し、設問に対する感想をワークシートに記入する。
② 教室に戻り、スクリーンに映された野外彫刻の画像を見ながら、ワークシートに記入した感想を話し合う。
③ スクリーンに映された画像を見ながら、彫刻の作者である山崎猛について知る。
④ 本時の授業の感想をワークシートに記入し、発表する。

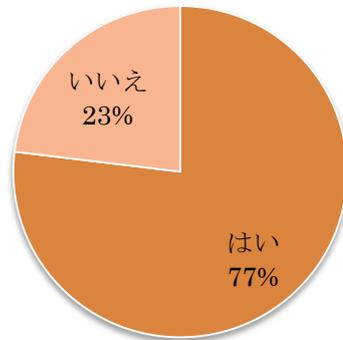
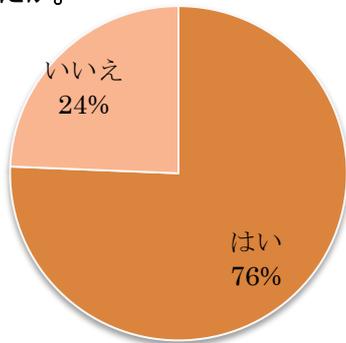
(2) 鑑賞活動の様子



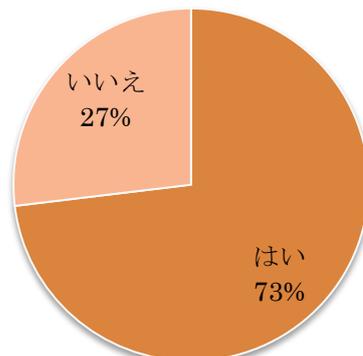
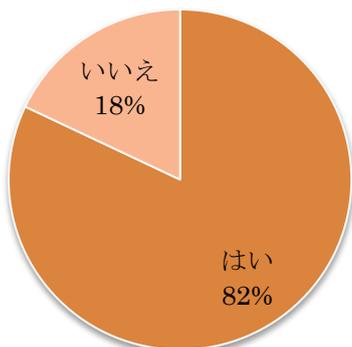
III 研究の成果と課題

今回の実践を終えてのアンケート結果は以下の通りである。

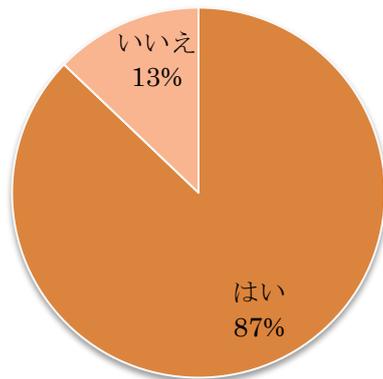
- ・山崎猛さんという人についてもっと知りたく・山崎猛さんと高萩の関わりについて、もっとなりましたか。



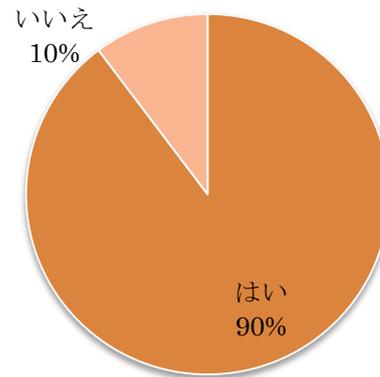
- ・山崎猛さんを知って、以前より彫刻に興味をわきましたか。
- ・自分も彫刻作品を制作してみたいと思いますか。



・山崎猛さんを知って、以前より美術に興味
がわきましたか。



・山崎猛さんの他の作品も見てみたい
と思いますか。



以上の結果から、8割以上の生徒が、校内の彫刻を鑑賞する前に比べて彫刻や美術自体に関心が高まったことが明らかになった。

本研究のねらいである、すべての生徒の学習意欲の向上という点では、達成には及ばなかった。これから、学習意欲の高まりを見せなかった生徒の原因を探り、改善に努めていきたい。さらに、対象学年が1学年であることから、本物の作品を鑑賞する授業としては中学校で最初の本格的な鑑賞活動と言える。ここを起点にして2学年、3学年と系統的に鑑賞活動を発展させていきたい。

郷土への愛着をわかせるという点では、山崎氏との関わりに限定してではあるが、7割以上の生徒が興味をひかれるようになった。彫刻作品や作家、ひいては美術全体への関心を概ね高められたと言えるが、「自分も彫刻作品を制作してみたいと思いますか」という質問に対しての肯定的な意見が最も低く、73%にとどまっている。郷土の作家を活用することで、鑑賞への興味はわくが、制作に対しては関心が向かないという現状を受けて、今後は鑑賞活動を独立して行うのではなく、表現活動と関連付けて実施していくことも視野に入れて研究を続けていこうと考える。